

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成24年度第2回情報教育研究委員会打合せ会 議事記録

- I. 日 時：平成24年9月25日(月)午後2時～午後4時
- II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 参加者：村井委員長、大原委員、渡邊隆俊委員(Net)、渡辺淳委員(Net)、企業アドバイザー：日立製作所
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本(記)
- IV. 検討事項
 1. フォーラムについて委員の意見
 - ・ みんなが学び合う、情報とどう向き合うか、学びのプラットフォームを造りたいことを事前に伝える。
 - ・ 新しい知をつくるためのシンクタンク、インタラクティブにすることで、2回目は最初に考えない方が
良いか。切り口を提供して2回目以降はプラットフォームで答えを受けたものを活用し、反応を見て2
回目は構成をしてはどうか。
 - ・ 若者は同調して自分たちで満足してしまう傾向がある。ネットを使って情報を知識にし、知識を自分の
財産、知恵に変換することの多面的な訓練が必要で気づき生まれることに期待したい。
 - ・ ネット社会で、今は作りっぱなし状態で、教育や家庭で知識がえがかれていない、情報社会への省庁も
複数の管轄があるなど、多岐に渡った課題の洗い出しが必要ではないか。本来のネット社会を創造するテ
ーマからブレないことが重要ではないか。
 - ・ リスクの視点が不足しているのではないか、情報社会はリスクを含んで進めるしかなく、情報社会のリ
スクマネジメントをつくることを含めてはどうか。
 - ・ 真実をわかること。子供はネットはこうだと直感的に言う。例としてブログ、日本では日記で、アメリ
カはジャーナリズムで、世代でもかわってくる。その裏にある技術プラットフォーム、できるようになっ
ている結びつきがはっきりしていないこと。また、Webメールでの広告・信書・通信の秘密として、Web
メールはクラウドを例に、郵便ではないことで解釈が変わり広告を付加するなど変化があり、技術発展、
ブラックボックス、背景、原理、相関関係を考える必要があるのではないか。
 - ・ 創造するためには、技術の発展を分かっている必要があるのではないか。
 - ・ フォーラムの最初の説明に、イントロダクションとして対話が必要ではないか。若者にどういう視点
をもたらすか。ブログを例にオープンにして、多面的に取り入れながらイノベーションできる、新しい価値
をつくっていく。それぞれの知見を蓄え、各国で受け入れ易いものを実現させてはどうか。
 - ・ 若者が耳を傾けられる対策として、今村久美氏を大学生、高校生への繋ぎで話題の投げかけ役として、
パネリストが解説するインターカーの位置付けをお願いしてはどうか。村井先生とペアでの司会進行。
 - ・ イントロの後の内容として、情報ネットとは事象を見る必要があるか、国、社会事象から企業活動事象、
個人的事象をまとめて正しく活かす、情報ネットが持つ力の本質を考えることから逆引きしても良いか。
 - ・ 情報ネットの前に人の教育が必要か、ネットでない社会の要因も含めるか。モノづくり、産学と社会未
来の問題、経済と産業との対比で考えてはどうか。
 - ・ Net 社会の第一人者である東京大学の西垣先生にパネリストに参加いただいてはどうか。
 - ・ 筋立てとして、課題の洗い出し、大学生に新しい社会を創造させること。若者に課題を聞けるプラッ
トフォームを、事前に公募するなど、創造とは何か、発言があれば参加させてはどうか。大学生の質問を途
中で受けてはどうか。ただし、今回は中継の予定はなく、録画とする。
 - ・ コメントータは、事例を映像で見せて解説してはどうか。例として物流の沖縄ハブなどで、司会者が聞
き役になって指名する進行はどうか。ネットで起きている事象を話してもらおう。今村氏に被災地の情報活
用などを説明してもらおう。アメリカの大統領選挙やアラブの春や安全安心などの視点ではどうか。知らな
い世界を映像で強調して、関係者の話などからめて説明してはどうか。その後、司会から深い質問をし
てもらおうことではどうか。
 - ・ フォーラムの配信は3分のコンテンツを4～5個の構成で作成できないか。
 - ・ 日程は1月の28日または29日でパネリストの調整をすることにした。
- V. 次回の予定
 - ・ パネリストの予定を確認して、実施日程を調整することにした。
 - ・ シナリオ概要などを次回検討することにした。